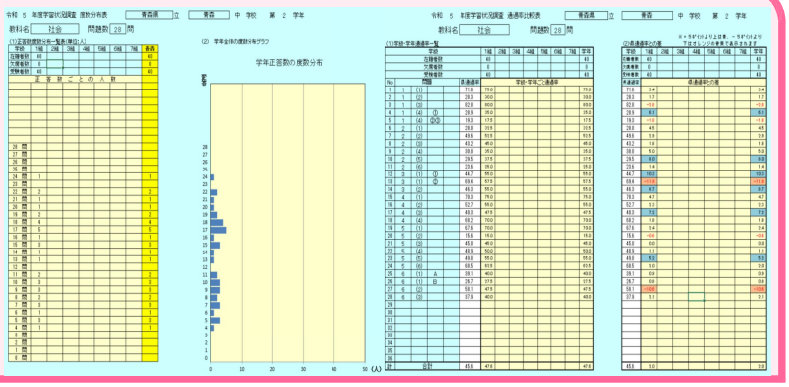
～児童生徒の「確かな学力」の育成に向けたさらなる授業改善を～

学習状況調査及び報告書の活用について

「授業改善を推進するために」

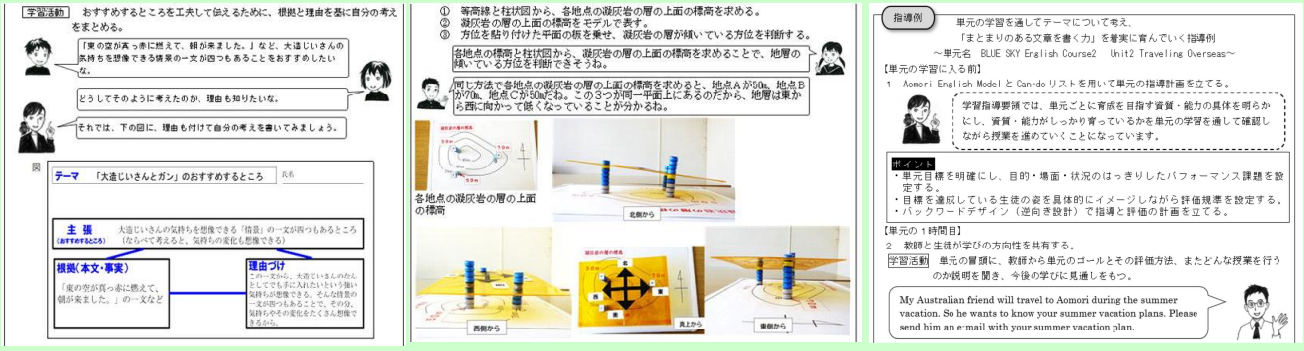
今年度の調査では、集計表に「度数分布」や「自校の結果と県通過率の比較」のシートが付いています。自校の結果と県の平均通過率を入力すると自動計算されます。

シートを活用して設問ごとの通過率を基に、授業改善のための自校の課題について検証するなど、分析ツールとしてお役立てください。



「報告書には授業改善のための指導例があります」

報告書には、各教科の分析結果や、そこから見えてきた課題に加え、課題解決のための指導例を掲載しています。また、この指導例は、学習指導要領で示されている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を意識したものとなっています。各教科での活用はもちろん、校内研修等で共有を図るなど、多様な方法での活用が考えられます。ダウンロードして、いつでも活用できるようにしてはいかがでしょうか。



報告書は県教育委員会のホームページからダウンロードできます。
掲載先はhttps://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kyoiku/e-gakyo/jyoukyouchousa.htmlです。
指導例は県総合学校教育センターのホームページ（https://www.edu-c.pref.aomori.jp）からもダウンロード可能です。

「各学校ではこんな活用をしています」

学習状況調査や報告書の活用に工夫して取り組んでいる学校があります。自校では、どのような取組が有効か組織的に検討し、できることから取り組んでみませんか。

以下は令和４年度に実施した学習状況調査の活用アンケートの回答の一部です。

【小学校】

- 「指導例」を活用した指導法の実践を行ったり、次年度の各教科の指導計画の改善に生かしたりした。
- 各学年の教科書を持ち寄り、本校の通過率が低かった問題について、系統性や指導上の留意点、工夫できる点についてグループ協議し、全体で共有した。
- 中学校区で課題や取組を共有し、自校の指導に生かした。

【中学校】

- 教科部会を開いて結果分析を行い、当該学年だけでなく、他学年の担当者も結果を指導に生かして全校的に苦手分野の対策ができるようにした。
- 今年度の県学習状況調査を第３学年で実施し、第２学年の結果と比較した。通過率の低い設問の中で、２年間に渡って通過率が落ち込んでいる設問については、指導方法の改善方策を検討した。
- 結果の分析を行った後、学校だよりで保護者や地域の方に情報を公開し、指導改善の手立てを示して取り組んだ。

問　県教育庁学校教育課小中学校指導グループ　０１７－７３４－９８９５